



みずみどり

2024年 8月1日 第163号

発行：いたばし水と緑の会

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
<http://mizumidori2.eco.coccan.jp>E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

連絡先 坂本 郁子 桐蔭区中台2-27-E505

020-4700-1000

# トンボ池の自然

通りすがりに、草が茂っているトンボ池に何かいるかな、と見る人もいます。トンボ池はトンボのヤゴやオタマジャクシのような小さな生き物が成虫(おとな)になるまで暮らせる場所として、25年前に作りました。水は大仏下に湧く水をパイプで引いてきて、美術館裏から水路を流れて池に入ります。城址の山の下に作られた都会で貴重な湧き水の池です。自然っぽい風景です。6月になるとシオカラトンボ、オオシオカラトンボ(オス)が来て、激しく飛び回って縄張り争いを繰り広げ、7月には黄色いメスのシオカラトンボが来て、ちょんちょんと水に産卵しています。7月20日にはショウジョウトンボ2匹飛来しました。



## トンボ池は自然か？

さて、都会の中の自然の創出は、生易しくなかった。すぐにいらなくなったいきもの（ペット）が捨てられました。以来捨てられたザリガニが繁殖して住みついています。大きな緑地にはヘビなど大きな生き物もやってきます。

## アメリカザリガニの駆除

トンボ池では5月過ぎた頃からアメリカザリガニをトラップで捕まえて駆除することをしていきます。例年だと10月末くらいまで続けているそうです。

目的は春に孵るオタマジャクシと夏にトンボが産卵し孵った幼虫ヤゴの保護です。

私はボランティアに本格的に参加し出したのは3月ごろ。

去年は350匹、一昨年は400匹捕まえたそうです。今年はそれをゆうに超える数のアメリカザリガニを捕まえています（7月末で1000匹を超えた）。

当初、衝撃だったのが殺処分の方法です。躊躇なく足で踏み潰すというものでした。

その後敷地内に放置。弔いになるよう土を掛けることを提案しました。

ネットでアメリカザリガニの駆除、殺生方法をいろいろ調べました。冷凍庫で凍らす。揚げて食べる。畑の肥料にする。

冷凍庫は苦痛が無いらしいし食べることは供養になります。毎回の事なので現実的ではありません。畑の肥料に至っては殺処分方法が知りたかったのに、そういうことは載っていませんでした。皆、踏んでいるのでしょうか。

次第に出来る様になると言われましたが葛藤が続いています。

捕まえた後、殺生は人任せでは屠殺場とスーパーの肉の消費者みたいな関係がして申し訳なく思っています（布施今朝一）

## ザリガニのお墓

ごめんね、南無阿弥陀仏。ザリガニを殺すのはいやなこと。だからどこでも捕獲したザリガニをどうするかについては言葉を濁していますが、処分はついてくるものです。そんなことはおかまいなしにザリガニの死骸（風葬のとき）に虫たちが集まります。早いのがアリ、ダンゴムシ、それからベッコウヒラタシテムシ？です。シテムシは甲虫ですが幼虫はダンゴムシを平たく大きく伸ばしたような形で、動きも素早くちょっとグロテスク。シテムシは「死出虫」で動物の死骸を食べるお掃除屋さんです。私はベイトトラップ調査をしたときにシテムシを見ましたが、背中中の赤いシテムシは見たことがありませんでした。魚食性ではないかと勝手に想像しています。ザリガニの死骸は2、3日で殻だけ残してなくなります。アリもシテムシも地表で死んでいる生き物に集まるようです。自然界はよくできています。でもこの小さな場所に多すぎるザリガニの死骸はゴミです。小さな生態系は壊れるのでは？と思うのです。



## 布施式ザリガニトラップ



写真上はペットボトル2個使用したトラップ。ボトルの底側に別のボトルの口部を固定し、ザリガニはここからトラップ内に入る。口部には「返し」をつけて入口から脱出しにくい構造になっている（写真の上側）。反対側のペットボトル飲み口（写真の下側）を開けて、上下に振るとザリガニが出てくる。捕獲したザリガニを取り出すのに手も汚れず楽ちんです。大きなハサミのザリガニが、ペットボトルの口から出てくるのはびっくりでした。



ペットボトルの口は直径は2.5cmだが、市販のザリガニトラップの入り口は5cmもあり、エサがなくなればザリガニは外に出てしまう。この入り口にペットボトルの口部をとりつけて改良しました（写真右）。

## 水草

荒川と戸田市彩湖自然学習センターから水草を貰って植えました。今残っているのはウキヤガラ、ヨシ、イグサとタコノアシ。勝手に生えてきた水草もあります。セリ、クレソン、アシカキ（ほぼ消えた）、メリケンガヤツリ、アゼナルコスゲ？。遠くから飛んできた種が適地だと思って着地したのですね。水草は日当たりのよいフェンス際に集中しています。



左：ウキヤガラ、右：イグサとメリケンガヤツリ

## ヤゴもオタマジャクシも家庭の庭の方が安全

不破さんから庭のメダカ池にコシアキトンボが産卵したとの情報。3月にはカエルが来て産卵し、オタマジャクシは無事カエルになって上陸しました。猪鼻さん宅の直径50cm位のスイレン鉢のオタマはトンボのヤゴに食われて数は少なくなりましたが、豆ガエルになって上陸、庭を跳ねていたとか。オタマジャクシやヤゴにとっては庭の睡蓮鉢の小さなビオトープが、最も安全なのかもしれません。

## トンボ池 どうしたらいいのでしょうか

昨年秋みどりと公園課がトンボ池で、ヤゴの調査をしました。網にかかったのはザリガニばかりでした。土の池は、ザリガニにとって住みやすい自然環境なのです。

環境省の資料を見ると、ザリガニは根気よく駆除するよう書かれています。ほんとうに駆除できるのでしょうか。信じられないけど、ここまできたらもうちょっとやってみる???

## 成長し続けるバッタ広場

### 日当たりのよいバッタ広場の木

1月にバッタ広場の木の枝を切りました。切る作業はおもしろい。でもちょっと切りすぎたかな、春に芽が出てくるか心配でした。

ところが、6月9日に身長測定したところ、写真の切った先端から140cmも新しい枝が伸びていました。今はもっと伸びて、2m近くあるのではと思います。バッタ広場の中心部は、年中日が照り付けるので、雑草でもササでも木でも成長がすごいのです。太陽の恵みはすごいなあと思います。



右:1月エノキ・クヌギを切った後。

右は7月末の様子。切った先端から2m近く成長した。



## 日陰に生えている木

成長が旺盛なのは中心部だけ。日当たりのよいところでは年に1, 2回枝切りをしているのに、バッタ広場のはずれは、斜面林の陰になって、実生木はあまり伸びず、あることすら忘れていました。もちろん枝切りをしたこともなかった。先日、日当たりの悪い樹林地側の木を調べたらムクノキ、イヌシデ、エゴノキ、クルミ、クワ、ミズキ、など、バッタ広場の中央に生えている木と違うことに気づきました。これらの木も、自然に生えてきた木です。10年ほど前、バッタ広場の周囲を生け垣にしようと考えて周囲にある木を残したものです。枝の張りもよくありませんが、日当たりが悪くても適応できる木だったのですね。



左：ひとり生えの木をそばの柵に沿って移植（22013年秋） 右：今の様子

## 日当たりのよいバッタ広場の木をどうする

バッタ広場の日当たりのよいところは、雑木林を更新したような環境らしい。「雑木林の更新」とは、薪や炭を利用するために定期的に木を全部伐採して、切り株から出た新芽を育てていく「持続可能な樹木の利用方法」で、それが、石油が出回る以前(5, 60年以上前)の里山です。新芽が出て10~15年くらいで伐採したそうです。私は見たことがありませんが、細い木がさやさやと風になびき、太陽の光が差し込み、開けた空間に野草が咲き、雑木林に卵を産むチョウチョが舞う風景を育ててきたのでしょう。バッタ広場は、その風景に似ているかもしれません。

雑木林のコナラやクヌギの木に年に1回だけ産卵するシジミチョウ(アカシジミやミズイロオナガシジミなど)に注目している人もいます。以前浅原さんにバッタ広場のコナラの幹の小さな産卵傷を教えてもらいました。小さなチョウチョが、幹に傷つけて卵を産むなんてけなげですが、私は草刈り等手入れの他に、チョウチョを見守る熱意は湧きませんでした。チョウの会の神山さんから、コナラやクヌギの若木は全部枝切りしないで、切らない木を残してほしいといわれました。チョウがどの木に産卵したか判断できませんが、一部をそのままにして、秋には、コナラ、クヌギ、エノキなどを思い切って切りつけてきましょう。

## 手ごわいササ

バッタ広場は、斜面林につながる草地なので、斜面林の影響を受けます。バッタ広場の木は斜面林の木の種が生えてきたものです。斜面林のササは地続きで侵入してきました。5頁の左写真に比べて右写真のササは顕著ですね。ササは周囲から中心部に向けてジワジワと増えてきています。こわー。バッタ広場では、野草(チカラシバなどのイネ科植物と花の咲く野草)の空間を確保することを第一に作業してきました。

そうになると、バッタ広場の中心部から外れたところでは、ササが繁茂し、固い茎となり、切り口が鋭くなります。ササは地際で刈り続けないと切り口も伸びて鋭く危険です。小さな子供達も入ってきます。その地際で刈る作業が辛い。東京都の公園では、ボランティアによる草刈り機の使用は禁じられています。ボランティアの力不足で、手を付けずに来たササ藪が少しずつ増えてきました。

新しい仲間みなさんと涼しくなったらみんなササ刈りに取り組んでみましょう。無理をしないで、少しずつ。目標は「緑の手」の管理する斜面のササ。

## バッタ広場の生き物調べ(7月27日)

日差しを受けるだけで汗ダクダクの土曜日。板橋区立美術館前に集合し、トンボ池を見て赤塚城址公園へ。数日続いた雷雨の影響か、登る道々にクヌギの枝先が落ちていた。草原ビオトープのバッタ広場の周囲には木陰とベンチ。木陰でスケジュールを確認。会の坂本さんから、「いたばし水とみどりの会は普通にいる虫が住みやすい環境づくりをしている。バッタの好きな草はイネ科の植物。生き物調べでどんな環境が虫にとって大事か考えてほしい。暑いので昆虫採集は30分間した後、どんな虫を採集できたか、みんな観察をしましょう」と。続いてみんな昆虫採集

に繰り出す。草地を数歩、踏み入れるだけでショウリョウバッタが何匹も飛び上がり、クズが生い茂る草藪に逃れていく。虫捕り名人、虫捕り博士のお子様たちは、虫網で、帽子で、素手で思い思いに虫捕り作戦。チカラシバというイネ科の植物が群生している草地。ちょっと見るだけであっちにもこっちにも昆虫がたくさんいて、どんどん捕まえている。用意した透明ケースが足りなくなるほど。中には、虫を追いながらジャンプしてから草原に滑り込むお子様も。顔に玉のような汗を流しながら虫捕りに熱中する子供と大人たち。30分はあっという間。集合！と声をかけても、虫捕りを続けたり、昆虫をカメラで追いかけるお子様。たった30分で、16種40匹ほどの虫を捕まえた。私が住む近くの公園には蚊やアリはたくさんいるが、カマキリやバッタを見ることはない。バッタ広場にはびっくりするほどの虫たちが生きている。草地にスライディングしてもけがをせず自由に遊べる空間、それがバッタ広場（草原ビオトープ）だ。猛暑の土曜日の1時間半余りの生き物探しだったが、このバッタ広場でいろいろな観察会をしてみたいと思った。いきもの（動物、植物、人間同士）との付き合い方を、子供も大人も学びあえる場所だと思った（観察後虫たちは草原に戻しました）。



参加者：18名。会員  
6名

記録した昆虫：ショウリョウバッタ14  
(幼1)、クビキリギス幼4、オオカマキリ幼2、コカマキリ1、イナゴ、ツチイナゴ幼4、オンブバッタ1、クルマスズメ、

タマムシ、シロテンハナムグリ、コフキコガネ3、  
コオロギ、ヤマトシジミ、ジョロウグモ

雨宮 清子)



虫を採集し、記録しました。  
暑かったけど、無事に終わりました。ありがとうございました。

## 活動・観察記録(6~7月)

トンボ池 ザリガニ多捕殺、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、(オオ)シオカラトンボ産卵、ショウジョウトンボ、ギンヤンマ、カブトムシ(メス)(堆肥置き場)、ベッコウヒラタシデムシ?、アカボシゴマダラ幼、ナガゴマフカミキリ、カナヘビ

バッタ広場 アカボシゴマダラ幼、オオウンモンクチバ、ナガグロクチバ、ツチイナゴ、ツチイナゴ幼、ショウリョウバッタ幼、ショウリョウバッタ、オオカマキリ幼、イナゴ、ホシササキリ、キマダラカミキリ、クワカミキリ、タマムシ、キマワリ?、マルカメムシ、マメコガネ、アオドウガネ

# 活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

異常気象の中での活動、動植物の夏の暮らしの観察や手入れも必要だし、悩ましいところです。各自判断して下さい。

## 1 赤塚城址ビオトープちょっと観察と手入れ（第2日曜日）どなたでも

暑い季節生き物は元気です。生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら元いたところに返します。ササ刈り等の作業をやります（カマは用意します）。

8月11日（日）10:00～11:00

9月8日（日）10:00～11:00

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・作業手袋、あれば図鑑、虫眼鏡など、

## 2 赤塚ビオトープ（バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

9月28日（土）10:00～11:00 バッタ広場笹刈等

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前 汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

## 3 日暮台公園と樹林地の観察（第1日曜日） 10時日暮台公園前集合

## 4 セミの抜け殻しらべ

日時 8月24日（土）10時～11時

集合場所：赤塚公園サービスセンター

子供たちとセミの抜け殻調べ。通常の活動はありません。興味のある方は坂本まで。

●ビオトープボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。